

編集後記

一九八〇年六月以降の一年間に実施された、六回の宗教講座の講録をお届けします。

六名の先生方のお話を振り返ってみると、そこに共通して語られているのは、現代の人間社会の異常性です。それを、東井先生と福島先生は子供たちの声の中に、花岡先生は濁流に呑み込まれた少年の話を通じて、また坂本先生は現代人の不安という観点から、そして水原先生は科学者の立場から、それぞれ指摘しておられます。

その異常性とは、一口でいえば、過去には見ることでできなかった、現代の人間社会を根源から支配している、エゴイズムの熾烈さを指しています。そして、今、我々に求められていることはいえば、先生方の識見に照らされて自己を省察し、その異常性から脱け出るための指針となるもの——曰く、ほんとうの私、もう一人の私、生地の自己、大宇宙を支配する最高の力、そして知恩の心——を発見することより他にありません。それに向かう姿勢こそが、学長の語られる「眞實心」にかなうものでありましょう。

本書をお読みになる皆さんが、ひたすらその道を歩まれることを念じて止みません。

一九八一年十月

(編集者記)